



# 高田町内会だより

第 15 号  
発行日:平成29年2月1日  
発行者:高田町内会  
会長 宮田 寿雄



高田町内会会長  
宮田 寿雄

## ♪ もういくつ寝ると――

皆様お揃いで良い年をお迎えの事とお慶び申し上げます。  
早いもので今年も1ヶ月が過ぎました。「もう50日寝ると新年度」と成ります。学校・役所・企業そして町内会も年度替わりに役員交代などが行われます。組長さん班長さん(役員)の任期も残り50日余りと成りましたが3月31日迄宜しく願い致します。任期終了後は役員経験者(町会理解者)としてご協力をお願い致します。役員は「順番に、全員が」と言う方針でお願いしております。10数年で全会員が役員経験者。会員も増えました。町内会活動が楽しい。こんな初夢を見ました。  
平成29年はフク(福)の年と言われています。今年は「笑門来福」で行きましょう。

## 【第 32 回 港北駅伝大会を振り返って】 高田地区スポーツ推進委員連絡協議会

会長 宮田 延雄



連町会の部/スタート

スポーツ推進委員の年頭行事として毎年1月の初旬、小学生からシニア世代までの男女が選抜チームを結成し、約20kmを「襷」でつなぐ「港北駅伝大会」に参加しています。

チーム作りにあたって、29回大会から、小学生は学校に協力を求め、推薦してもらいました。そして保護者の方々にも協力頂き、開催した練習会で記録をとり、さらに長距離を走ることに向いている子どもたちを選考させていただきました。

高校生の部は部活で陸上などの大会に出場していた選手を中学校の先生

生にお願いしてピックアップしてもらい、お願いすることができました。

シニア世代の部では運動会の「ミニマラソンの上位者」に練習会に参加してもらい、出場をお願いしています。

その結果、29回(6位)、30回(4位)、31回(5位)と3年連続でチームとして入賞出来る様になりました。区間賞も30、31回大会で合計3名が受賞されました。

このような入賞は小・中学校の協力があってこそで、「高田」にはこんなに速く走れる方々がいるのだと毎年驚かされます。

平成29年1月8日(日)に開催された32回大会は、「第7位」と入賞こそ逃しましたが富本崇正君と倉田悠太郎君の2名が区間賞を獲得し、成果は着実に実って来ていると確信しております。

練習会などを通して、世代を超えて知り合いになることで、人と人の輪が広がっていくことも、とても嬉しいことです。

小・中学校、高田町連合町内会の方々にはご支援ご協力をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。



区間賞



全員集合

### 感謝状

高田町連合町内会 様

貴連合町内会は平素から出火防止活動を積極的に実践されるとともに地域の安全と安心のために一致協力した結果平成29年1月7日をもって1年間連続無火災の記録を達成しましたその功績は多大でありますのでここに感謝の意を表します

平成29年1月20日

「市民防災の日」  
港北区推進委員長  
港北区長 横山 日出夫



### ”連続無火災”に感謝状

1月20日 高田町連合町内会が、「市民防災の日」港北区推進委員長の横山日出夫港北区長より表彰されました。あわせて横浜市消防局からも感謝状をいただきました。

これは、高田地区 8,600 世帯が「平成29年1月7日をもって1年間連続無火災の記録を達成」したからです。

各ご家庭やお店そして事業所等が、常に火の管理に気を付けられた結果です。今後もこの輝かしい記録を更にのばすようにしたいものです。

## 「緊急救命心臓マッサージとAED使用について」

10月の全体常会で、港北消防署 高田消防出張所所長 川渕敦氏を講師に迎え、組・班長と理事が表題について研修しました。

心臓マッサージやAEDの使用は大半の方が経験なく、驚きと戸惑いの事ばかりでした。



ダミー人形を使って訓練

川渕所長

講演会の内容は次の通りです。

### 【応急手当ができたなら救命率は確実に上がる】

AEDを使用する前にまずやって頂く事

1. 倒れた方への声掛け(耳元で顔の横から)
2. 胸の動きを確認
3. 救急車依頼・AEDの手配をする人を特定して依頼する
4. 心臓マッサージの開始と交代要員の確保

### 【心臓マッサージは力強くリズムカルに】

胸が動いていないときは、直ちに心臓マッサージを開始する。

胸の中央部分を、肘を曲げず、真上から力強く続ける。1分間に100回位のリズムで行う。これは直ぐに疲れるので交代する人に「あと5回で交代して下さい」などと声を掛け合う。

なお、ベッド等の柔らかい場所でなく、床などで反動させないように行う。

心臓マッサージを終了するのは、目を開けたり、動き出した等、明らかに回復が見られる時です。

### 【AEDはいつ使用するか】

心臓がビロビロと震えている(微細動)時に、これを止めるために使用するのであって、テレビドラマなどで見る、止まった心臓を動かす為ではなく、止まった心臓は人工マッサージが必要との説明に一同ビックリしていました。



高田研修所に設置した AED



### 【肋骨が折れることよりも命が大事】

次に人形を使っての実習では、胸がへこむほどの力の入れ方を見て、「人間もへこみますか」との質問に、「へこまなければならない、肋骨が折れることもあるが、やむを得ない、命が大事です」と教わりました。

実際に行ってみると、思った以上に疲れることが分かり、交代する人の確保が大事であることに一同納得していました。また始めたら途中止めない事、AEDが来て準備OKまで続けることです。

### 【AEDの使い方は、AEDが指示してくれる】

AEDはスイッチオンすると自動的に音声による指示が出ました。

あとは、AEDの指示で操作するので、まずあわてないで行動することが大事です。

4台のAEDを使い、参加者全員が体験しましたが、皆さん熱心に受講されていました。

最後に川渕所長から、「人命だけでなく、火事、事故など皆同じで、怖がらず、行動を起こしてください」と要望されました。

## 高田地区子育て支援「子育てネットワーク会議」

事務局「たかたんのうち」

高田地区では子育て中の親子が集う広場「たかたんのうち」「たかたっ子育て」「ふらっと高田」等ができ、子育て支援の取り組みが進んでいます。親子と触れ合う中、地区内の子育て支援に携わる関係者や団体が連携することにより、さらなる支援ができるのではとの思いから、年に3回会議を行っています。支援の関わり方の違う18団体、それぞれの活動や問題点など情報交換を定期的に行うことによって、協力できる関係性もできています。児童虐待問題や、子育て世帯の現状等の課題も見え話し合いを重ねてきました。

☆親子の見守り方策

☆地域の子育て情報の提供

☆子育て世帯同士や地域との交流の場の充実等について、協働をして取り組んでいます。



今年も高田西公園に  
**移動動物園**

がやってきます！

3月12日（日）

11時～13時

雨天予備日19日（日）

高田地区子育てネットワーク主催

### たかたん♡こどもまつり

日時：平成29年3月5日（日）《雨天決行》

10時～13時

場所：高田地域ケアプラザ

対象：未就学児の親子

- ・子ども用品バザー
- ・たかたんグッズ販売
- ・ゲームコーナー、手づくりおもちゃコーナー
- ・お楽しみコーナー（紙芝居・パネルシアター・絵本読み聞かせ・人形劇他）

☆消防団消防車両展示 ☆ザ・ハッピーサックス演奏



今年3月に、子育て中の親子に向けたイベント「たかたん♡こどもまつり」と「移動動物園」を開催することになりました。お楽しみと地域の情報があります。どうぞご参加下さい。

現在は未就学児対象の活動が主ですが、学齢期の支援にも輪を広げ、これからも子育て支援環境の更なる充実に向け活動していきます。

「高田地区子育てネットワーク会議」参加団体

地区社会福祉協議会、地区連合町会、民生児童委員、光明幼稚園、桂幼稚園、たかた保育園、ケンパ高田、あい保育園、パレット保育園、ふらっと高田、子育て支援者、赤ちゃん訪問、「たかたんのうち」、主任児童委員、高田地域ケアプラザ、港北区子育て拠点サテライト、港北区福祉保健センター、港北区社会福祉協議会

## 富士見台自治会の防犯パトロールについて

富士見台自治会理事：古屋 靖夫



私がこの地に転居して来たのは昭和38年でした。当時はまだ家もまばらで高田消防出張所も無く、その周りは田んぼだらけでした。何年かたって家が建て込んで来て、町も活性化して来ると空き巣の被害が時々聞かれるようになりました。平成15年に高田町内会の理事になり、町内会の仕事をしているうちに「防犯」の事を考え、富士見台自治会の班長会議に防犯パトロールの実施をはかり、月1回の防犯パトロールを行う事を決めました。初めは「ハンドマイク」を持ってパトロールをしていましたが、家の中にいると聞こえないとの話があり、検討した結果、「拍子木」の音が良く聞こえるので「拍子木」を自治会で購入し、また遠くからでも分かるように「赤色灯」（ガードマンライトとも言います）も購入し、時々子供さんも参加して、世間話をしながらパトロールを行っています。

ここ数年、空き巣の被害も聞かなくなり、これも歴代班長さん及び住民の方々のご協力のおかげであり、とても感謝しております。

これからも月1回の防犯パトロールを、班長さん等の協力の元に続けてまいりたいと思います。

## 「地域とともにある学校」をめざして

### —西公園清掃から—

高田中学校 堤 拓教諭



地域の方と一緒に作業される高校の生徒

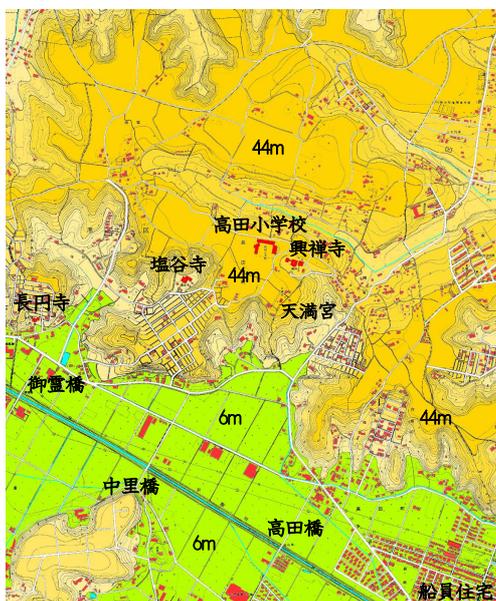
高田中学校では、「地域とともにある学校」をめざし、地域と一体となって子どもたちを育もうと考えています。子どもたちがさまざまな地域の活動に参加することで、地域に根付く子どもたちを育て、その子どもたちを軸として、学校と地域がパートナーとして連携・協働していきたいと思っています。これまでも盆踊りや高田地区大運動会には、本校生徒が参加していたと思います。今年度はもっと生徒に高田地区の一員であることを意識してもらうために、月1度の高田西公園の清掃活動に協力することを決めました。中学校内でボランティアを募り、職員と共に参加させていただいています。生徒の中には、熊手の使い方に慣れていなかったり、普段見知らぬ方と話す機会が少なくどう話していいのか戸惑ったりする者もいますが、生徒は地域の皆様と一緒に公園をきれいにすることに充実感を得ています。これからも地域と共に高田地区の子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。

私はこの西公園清掃ボランティアに参加して、様々な発見することができました。私たち子どもが多く利用している公園を今まで地域の方々がこんなにもまめに清掃してくれていることを知りませんでした。これからこの公園で遊ぶ時はこのことを念頭に置いて遊びたいと深く思いました。また、このボランティアに参加したことで、地域の方々とつながりをもつことができ、公園に生えている植物についてや、道具の使い方など様々なことを教わりました。普段学校では学べないことを学べてとてもうれしかったです。これからもこの西公園清掃ボランティアに積極的に参加し、地域の方とのつながりを大切にしていきたいと思っています。 福祉委員会 委員長 高橋里緒

## 高田って どんどこ？ —11—

### 「昭和30年～昭和40年の高田町」

#### 水田が広がる のどかな農村！



昭和38年頃の高田町

横浜市地形図複製承認番号平 28 建都計第 9119 号  
着色と挿入大文字は高田町内会広報委員会が実施

昭和31年に経済白書が出され「もはや戦後ではない」といわれ、高度経済成長が始まります。昭和39年には、東海道新幹線が開通、10月には東京オリンピックが開催されました。

この当時の高田町は、早淵川沿いに海拔約6mの平地が広がり、水田となっていました。昭和36年に6年生だった人は、家から松下通信（綱島街道）のシンボルタワーが見えたと話しています。住宅地は東端部に「船員住宅」（現・高田町住宅親交会）があるのみでした。北西部は海拔約43mの台地で、住んでいる人たちは「山」と呼んでいた樹林帯でした。台地の上は、畑や水田でした。

民家とその他の建物は、主に台地の上と、台地から平地になるあたりに点在し、農家の人たちは、主に米作り、野菜作りをしていました。その他、くだもの作りや養鶏業も見られました。

#### 編集後記

新人の広報委員です。自分本位にまとめがちな記事を、「会員目線の立ち場で、読みやすく、興味を引くような記事に直しなさい。」などの指導を受ける日々です。 (T. I)